

他人とは

この間久しぶりに新幹線に乗車しました。小生の前の席に座っているのは、外国人カップルでした。その外国人は同乗している約2時間位『キスする音が聞こえるくらい。』いちゃついていました。そして京都駅で下車していきましたが、テーブルの上は食べ物の残りかすや容器が散乱していました。お行儀の悪い外国人だったと思います。そうこうする間、電車を乗り継いで自宅に戻っている道中の何時の時間だったか忘れましたが小生の頭の中を過ぎる物が有りました。

それは家族・親戚以外は全て他人ですが、その他人を無視して生活を送る事が出来ない世の中になっていることです。なんでこんな当たり前の事がこの日に感じたのかは自分でも解りませんが、先ほど話題にしたお行儀の悪い外国人を含めて、全ての地球で存在している人間は何らかの関係を有して生活を送っているのです。

100円寿司に2~3ヶ月に1度次男の小学校6年生と妻と小生の3人で出かけますが、食材の殆どは外国に依存しているし、現在使っているエネルギーの殆どを外国に依存しているのが現状だと思います。

もし日本産だけ、関西で生産できる食材だけ、電気も使わずローソクで生活し、薪でご飯・お風呂を焚き暗くなったら就寝し、明るくなったら起床する純国産にこだわった夢の生活を目指し全く日本以外の人間と接触しないよう心がけ、仮に形だけ実現出来ても、実は接触を持たないと生活が出来ない仕組みになっているのが今の世界の仕組みだと思います。

ただしこのようなグローバル化した世の中の仕組みになっても、こう言う生活『中国製と言う表示の物を一切使わずに生活を送りたい』をしたいとかと言う要求は日本人全員に少しは有ると思いますが、それは絶対に出来ないのです。

なぜ『世界が繋がりがすぎている時代、どこかの国に危機が訪れると直ぐ影響を受ける』に陥ったか、それともこう言う形に勝手になったのかは知りませんが、こう言う世の中になる事は先進国の人間には宿命なのかも知れません。だったら何が出来るのと考えたら、凄く難しくなってしまう。

我々先進国の人間は地球全体の10%位の存在です。残り90%の途上国のお陰で高レベルな生活が出来ているのです。それが現実なのです。

ところで小生は父が亡くなって来年10年目を迎えます。そして社長にして頂いて18年目を迎えるのですが、特段肩に力を入れて、政治家が盛んに言う戦後レジュームからの脱却に例えて脱父親路線の脱却などは最近全く考えていません。確かに扱い品目の変更・お客様に開かれた材木屋を、目指したり、色んな改善をしてきましたが、それは自然の流れと他人がいるから出来た事で有ります。身内ばかりでは事は進まなかったと思います。

仕入先は他人・外注先も他人・社員も他人全てが他人のお陰で成り立っているのでは有りませんか。

今月は服部商店の第47回目の決算月です。今年も色んな取り組みをしてきましたが、来年以降も新しい取り組みをしたいと考えています。服部商店の家族的経営の社員の皆様と一緒に。

売れる物と売れない物

売れる物と売れない物と言う書き方をすれば、それは大層違う物だと思われるかも知れませんが、それは少し違うだけなのです。

売れる材は売りに来ません。売れない材しか売りに来ません。具体的に言えばホワイトオークは売りに来ますがナラ材は売りに来ません。この簡単な現象の発生のメカニズムは需要と供給のバランス以外何物でもないので。

ホワイトオーク材は小生の会社にも色んな先からお話は有りますが、ナラ材のオファーは全く有りません。又オファーが有っても、良質材で無い可能性が多いのが解っています。

何故解っているかと言うと北海道の有る大手の広葉樹製材工場が木質建材を作っている建材メーカーにナラ材の木質原料の納入を止めホワイトオーク材に集約した話を聞いているからです。建材原料は家具材と違い大変多くの原料を消費します。多分家具材の5倍から10倍位の量が必要です。又安定供給は絶対です。それが出来ないのです。と言う事はナラ材が全く出回らないと言う事ではなく出回る数量が劇的に減る事を意味しています。

その証拠は以前の服部新聞で書きましたが、タモ材は昨年比殆ど同じ量が日本に輸入されましたが、ナラ材の輸入数量は昨年比50%以下だったと思います。それが現実となったのです。

営業の方が売りたいと考えても売る物が無いのであれば、ある物を売りに行くのは当たり前ですが、本当にお客様が必要な欲しい材料必要な時期に、適正な価格で、そして適正な量を販売出来る材木屋はそんなに多くは無いと思います。服部商店はそう言うリスク『入ってくるか、入ってこないか解らない材も御客様の必要としている材の確保』も考えて行動しています。

人気商品ですが今回は違う

現在人気商品のスプルス原木は表面的には即完売状態ですが、しかし今回の完売状態と昔の完売状態はかなり違うように思えてならないのです。約20年昔に今と同じ様な事『スプルス原木の超人気』が起こりました。需給バランスが全く狂い需要側の要求数量に供給側が全く応じられない状況でした。その時は上のグレードから下のグレードまでまんべんなく全て売れ、値段も関係する業者全てが値上げも出来、凄くウイン・ウインの関係でした。

しかし現在の状況は全く違います。それは価格転嫁が出来ないのです。平均15%以上スプルス原木が値上がりしていますが、何故か解かりませんが価格転嫁が難しいです。その要素は以下の現象で理解できます。

- 1、価格転嫁が出来ないので今までより仕方なく下級材を製材している。1/3位の注文材は出来るが残り2/3が全く残ってしまう。
- 2、価格転嫁をしようと努力しているが、他社が横ばいで売りに来るので仕方なくコスト上昇分を他の収入から穴埋めしている。
- 3、高い原木を仕入れし価格上昇分の値上げを打診したが、エンドユーザー側が冷えているのか注文が少ないので生産調整をしている。
- 4、価格転嫁が難しいので、国内製材品のスプルス材から中国製材のスプルス材に切り替えている。
- 5、価格転嫁を御願いしたら、お客様からスプルス材からヘム材（米ツガ）バルサム材（もみ

材)に材質変更が来ている。単価が安いので売り上げが上がらない。そうかと言って倍の数量の注文が有れば賄えるがそれは無い。

スプルース原木に関係している業界の人間は1~5の何れかの方法を取って頑張っていますが、状況は全く好転していません。この現象は、はっきり言って木材離れが相当進んでいるからに他ならないと思うからです。

スプルース材は針葉樹の仲間日本のヒノキ・スギに較べても使い易い材ですが、需要構造の変化は我々業界の人間は解かりません。実際本当の木の家が日本中で建たない現在においてスプルースと言う値打ちの有る樹種で有っても、太陽光発電・高ジエネレーション設備等に大金を使う住い作りが基本になったら、無垢の素晴らしい材など使えなくなるのは仕方が無いのかなと思っています。



大阪府岸和田市の木材港に入港したスプルース原木



名古屋の飛島村の入港したスプルース原木

理想の日本国とは

隣の家との間隔が十二分に空いていて庭が有り、年中太陽の光が燦燦と当り、息をするのも楽に出来、隣近所との楽しいお付き合いも出来る様な街作りこそこれから先日本人に求められている暮らしだと小生は考えます。

現実に日本全国に大規模な空き地が有り、250万戸と言われている空き家が有り、そして古い木造の密集地が有る日本国に住んでいて、特に関西は東日本大震災以上の南海トラフの大地震が来ることが予想されている時代なのに、ただ単に国土強靱化計画に200兆円もお金を公共事業に掛けたらどうかと、小生の応援している政党が仰っていますが、何か可笑しく思います。というのは、これから先の日本国には何が必要だと言う議論が無しに進んでいる様に見える仕方が無いのです。理念『将来の日本はこう言う形を目指す』無き政策は、これから先の日本を変える事は凄く難しいと思います。

東日本大震災で多くの御霊が無くなったことに深く思いを致しますが、残された人間達に有る一つの方向性を与えるのは行政の立場だと思います。その時何をしなくてはならないのかは、利害関係の調整と言う日本古来の方法も大事だと思いますが、利害関係の調整よりもっと大事なことがあると思います。それが私権の制限だと思います。

ただし私権の制限と言う方法論は公平・平等と言う言葉を無視することでは決して有りません。具体的に言えば、元々生産過剰で有った東北の水産加工工場を集約化させる事を実現する場合ある意味意見の大幅な制限がないと実現できません。そうでないと被災地の各県に一つずつ作るのでは、全く儲かる水産事業にはならないはずで。

被災された直後は凄く日本人全体が一つに纏まっていたと思いますが、1年と半年が過ぎれば被災地の方とはともかく我々関西の人間は忘れかけていると思います。

小生も南海沖大地震が来れば甚大な被害に合い、家族を失う可能性もあるのです。そう言う意味では、新しい仕組みを導入した新しい街作りのお手本を是非東北地方で実現して欲しいと思います。

これからの街作りはお金を使う公共事業も大事だが、その大きなお金をより一層柔軟に使える仕組みを考える事が、これから先の新しい街作りの為の計画だと思います。

一つの思案ですが100坪以下の一戸建ては認めないとか、建ぺい率50%容積率100%とか極端な考え方ですが、こう言う地域限定の街作りこそ日本を根本から変える一つのきっかけになると思います。

現実に日本全国の空き地・日本全国の空き家・余りに集中している密集地等々の状況を頭の中で考えると、南海大地震が来襲すれば大阪が東北地方以上に傷つく事になるでしょう。その時しか大きな町作りの変更は出来ないと思います。戦争が事実が無い世の中ですので。

東北地方の高台移転の話をついに耳にしますが、総論賛成・各論反対で中々進まないこともマスコミから聞いてはいますが、早く実現して欲しいと思います。

現実に私権の制限が決まっている事は有ります。それは日本が戦争に巻き込まれた時、自衛隊は私有地に対して予告無しに踏み入れる事は認められています。大地震が起こって何もかも無くなる事と同じ事です。